

令和7年度第1回恵那市総合計画審議会 会議録

日時：令和7年4月25日（月）15時～

場所：市民会館 第2会議室・第3会議室

1 開会

2 会長あいさつ

3 本部長あいさつ

4 議事

(1) 副会長の選任について

(2) 第3次恵那市総合計画（案）について

資料 No. 1

資料 No. 2

5 その他

(1) 今後の策定スケジュールについて

資料 No. 3

(2) パブリックコメントの実施について

資料 No. 4

(3) 次回開催予定

令和7年7月11日（金）15:30～17:00

恵那市役所 災害対策室 A・B

6 閉会

1 開会

■進行（事務局）

定刻なので開会する。私は本日の進行を務める企画課長の松田です。

本日の審議会委員 18 名のうち 16 名の出席である、恵那市総合計画審議会規則第 4 条の規定により会議が成立している。

また、本日の会議は恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、原則公開とし、会議録も公表するので、ご了承ください。

これより、次第に沿って進める。

恵那市総合計画審議会委員をお引き受けいただきありがとうございます。本来新しく委員になられた皆様には一人一人に委嘱状をお渡しすべきところだが、時間の関係で机上に委嘱状を配布したので、ご確認いただきたい。

人事異動等で交代された委員もあるので、改めて今年度の委員を紹介する。欠席の方を含め 18 名の皆様に就任いただいている。

2 会長あいさつ

■会長

本日は今年最初の審議会である。パブリックコメント前の最終案を組み上げる。本年も闊達な御意見を頂きつつ、うまく着地していけるよう努める。

3 本部長あいさつ

■副市長（策定本部長）

4 月に就任したばかりで、まだ 3 週間しか経っていないが、以前も部長として関わっていた。立場は変わるが、よろしくお願ひします。新年度になり事務局、部長も変わったのでよろしくお願ひします。

4 月 9 日にメーテレの「ドデスカ」で、「恵那市が住みたい田舎全国 1 位に 2 年連続 1 位になった謎を大調査」と題して放映された。3 点大きな特徴を取り上げていただいた。1 つ目は、名古屋まで 1 時間の通勤圏。2 つ目は、買い物をするところ、商業施設が多いこと。3 つ目に、素敵な田舎があること。特に印象に残ったのが、東京都板橋区から移住した家族の 8 歳の子どもが、「東京に住んでいたとき『僕のふるさとはどこか』と言われても言えなかったが、今はここがふるさとだと言える」と言っていた。

第 3 次総合計画は、20 年後の恵那市の将来像を皆さんに描いてもらい、そこに向かって、

より良いまちとなるように真剣に議論していただいている。本日も闊達に忌憚のない意見を頂き、計画づくりを進めたい。

4 議事

(1) 副会長の選任について

■進行（事務局）

議事に入る。進行は服部会長にお願いする。

■議長（会長）

昨年度副会長だった和仁委員が退任されたので、副会長が欠員となっている。審議会規則第3条の規定で「副会長は、委員の互選による」となっている、意見はあるか。

■委員

事務局案はあるか。

■進行（事務局）

地域自治区選出の瀬瀬佳恭様にお願いしたい。

[異議なし]

■議長（会長）

異議なしの声があったので決定したい。瀬瀬副会長は副会長の席に移ってください。

(2) 第3次恵那市総合計画（案）について

■議長（会長）

議事2について、事務局から説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■議長（会長）

気づいたことがあれば発言いただきたい。

■委員

26 ページ。「ジェンダー平等・多様性」について。今は「ダイバーシティ」という言葉にした方が良くと思う。

■委員

委員の意見が反映されていると感じた。

地産地消について。KPI にある学校給食の地元農産物使用率 35%というのは、かなり高い目標。農業従事者の4年後の数を考えると、達成できるだろうかと思う。

■議長（会長）

少し高い目標ではないかということ。

■農林部長

確かに高い目標ではある。恵那市の農業は、兼業農家が多く、ここに高齢化や担い手の問題もある。畑はやっているが、それをどこにも出さず家族だけの消費で終わっているものを何とか拾い上げ、学校給食などへ入れたい。米は恵那市産を100%使用しているが、野菜について、何を・誰が・どこで作るのかというところをポイントにしなから、35%というのを目標にして4年間やっていきたい。

■委員

19 ページの円グラフについて。第1次産業、第2次産業がどういったものかというのを記すと良いのでは。

■副会長

53 ページについて。今年で平成28年からの各地域の地域計画が終期を迎える。各地域で、この総合計画の案を見ながら、次の地域計画を作ろうとしているが、地域計画はどのような形で総合計画に関連しているのか。

総合計画で地域の進展をどうしていくかということだけでなく、総合計画と地域計画を連携させて各地域が頑張らないといけな。いくら総合計画で市が頑張っても、できることは限られている。協働の部分をどのように総合計画の中で考えているのか聞きたい。

豊田市の旭村というところを参考にしているが、地域計画がたいへん充実している。皆で話し合っている。今は、幼稚園の待機児童が出るぐらいだという。地域の住民の協働を盛り上げていきたい。

■企画部長

基本的には地域計画は総合計画と必ず連動している。ただ、地域計画との連携という部分が見えにくいので、どこかにその言葉を入れていきたい。また、13 地域の地域計画策定に向けて進んでいくが、地域振興課、企画課、振興事務所が一緒になって必ず総合計画と連動している形で作っていただきたいし、私たちもそのように支援する。

■副会長

地域計画は総合計画が発動するときと同時に合わせて、来年度に向けて準備しなさいという話だったということで話してよいか。

■企画部長

その通り。総合計画は、9月に基本的な部分を議会に提出する。12月ぐらいまでには総合計画が公表されるので、それを追う形で地域計画が策定される形になる。一緒になって策定するスケジュール。

■議長（会長）

目標指標には地域計画という言葉があるが、本文にはないということだ。本文にしっかり書くこと。

■副会長

KPIに「事業実施率」とあるが、どんな事業なのか。共通の事業があるのか？

■企画部長

検討する。表記は事務局に任せてほしい。

■委員

地域の計画が重要だということ認識した。61ページに地域計画と総合計画の関係についての記載がある。最後の段落に、「補完し合い、連携しながら課題解決」とある。この辺の記載を充実させると良いのではないかと。

■委員

20年後の恵那市の人口が5万人から3万人に減るということだが、人口減少によるメリット、デメリットがよく分からない。人口が減らないような施策が必要ではないか。産業・観光振興の推進では、KPIで企業誘致の推進を16件、年3.6件ずつと書いてあるが、これで人口減少の歯止めになるか疑問だ。

■企画部長

8ページの人口推計について。人口が減少するのは仕方のないことだと思う。今回の第3次総合計画では、人口を増やすということよりも、人口が減少しても、恵那市を持続可能なまちにするために、市民の幸福度を下げず、「自然とともに人とまちが輝く活力あふれる恵那」であるためにはどうしたら良いかという視点で基本方針、基本理念を定めている。もちろん、市としては人口減少を少しでも緩やかにすることも必要という考えも持っているが、この計画によって人口減少が止まる、人口が増えるという計画とはしていないのでご理解いただきたい。

■議長（会長）

これからも全国的に人口が減少していく中で、それを前提として策定せざるを得ない。ただし、そのスピードをいかに緩やかにするか。その中で幸せになるということがこれからの方向性。

■委員

小規模事業者だと、人手不足が一番の問題。これからもずっと続くと思う。地域のこともお祭りのことでも、やっていく人が少なくなっている。人手不足を解決するのに、手伝ってくれるネットワークができていくと、未来が明るいと思う。結局は人が一番大切なので、みんなで助け合える明るい未来を目指せるといい。

■商工観光部長

商工事業者の人手不足は認識している。全国的なことで、なかなか特効薬がない。その中でも、恵那市の事業者の魅力がまだまだ知られてないので、それをアピールしつつ、雇用を守り増やしていきたい。

■企画部長

人口が減る中で、人と人のネットワークが大事だと思う。例えば、自治会加入の問題。大規模災害が起きたときなど、初動は、地域で住民同士のネットワークで何とかしないとイケない。具体的に事業の中で、どうネットワークを作っていくか、手探りだが、今後展開していきたい。

■議長（会長）

地域の中でいかにネットワークを作っていくか、すぐに施策にはならないと思うが、今の議論を踏まえて検討してほしい。

■委員

53、54 ページの移住定住の推進について。婚活支援の昨年度の実績は。

■事務局

今すぐには分からないので、後日回答する。

■委員

結婚支援は、どこの市町でも成果が出にくい事業だ。本人の自由という部分があるので、難しいと思うが。

31 ページについて。分野別にカテゴライズされているので、これしかやらないという印象を受けやすい。基本構想のページには「分野を横断して取り組む」と記載されているが、分かりにくいので、このページにも一番下に記載すると良い。

例えば 36 ページの「健康づくりできる環境を整備」は、45 ページの「都市基盤」にも関わること。このページでやるのが全てではないということを知りやすくした方が、パブリックコメントももらいやすいのではないかと。

■企画部長

パブリックコメントがもらえるよう見せ方に工夫を加える。

■委員

56 ページについて。ハードだけでなく、人的ネットワーク、ソフトのネットワークの部

分を表記すると良いのでは。

■委員

36 ページについて。スポーツツーリズムについての記載があるが、今、具体的に考えられるものは何か。具体例があれば、用語集にでも記載していただきたい。

■教育委員会

スポーツツーリズムというのは、市内のスポーツに関する施設やイベントを活用して観光客を呼び込むというもの。代表的なものでは、恵那峡ハーフマラソン。愛知県を中心に県外から多く参加いただいている。他にも、大正村クロスカントリー、笠置峡ボート・カヌー場、笠置山ボルタリングなどもある。

■企画部長

用語集にスポーツツーリズムを入れる。

■委員

41 ページについて。基準値の置き方の考え方は。基準年度が令和5年度のもの、令和6年度のものがある。

■事務局

基準値はなるべく直近の数字にしている。令和6年度の実績値が分かっているものは令和6年度、分かってないものは令和5年度にしている。改めて確認し、令和6年度の実績値が出ているものは、そのように修正する。

■議長（会長）

最新の数値になっているかチェックしてほしい。

■委員

人口減少について。私が勤めていた会社でも、外国人の比率が高くなっている。その人たちは人口に入っているのか。ずっと在住して恵那市の住人になるなら人口としてカウントしないといけない。そういう人たちへのフォロー、地域との関わりをどうするか。そういう問題が書かれているところがない。将来はどこの地域でもその問題がある。

観光について。現市長が最初に立候補したとき、観光に力を入れると言われた。伝統的な中山道があり、観光の力になると思うので、そういうところも考えていただきたい。

■議長（会長）

外国人の移住定住についてと中山道の観光について。

■事務局

人口フレームの中には、外国人も入っている。

■委員

内訳は分かるか。

■事務局

内訳は出してないので後日お答えします。

■事務局

日本人も外国人もどちらも同じ市民として、外国人も含めた恵那市の20年後の将来像を描いた計画となっている。外国人も高齢者も子供も、多様な人を対象とした計画づくりをしている。

■商工観光部長

中山道は恵那市を代表する観光資源。中津川市の馬籠、妻籠には外国人など多くの観光客が来る。そこから西にいかにか人を呼び込むかが課題。県も中山道を何とかしたいと取り組んでいる。県とも連携して検討している。

■委員

初回の会議から気になっているのが、市民意識調査で生涯学習および文化とスポーツが、ほかの分野に比べて非常に低かったこと。コミセン、かえでホール、文化センター、五毛座など、各地区に活動拠点があり、施設の大小様々だが、どう活用するかが重要。飯地の五毛座の例を挙げると、4月に歌舞伎があり、たいへん盛況だった。伝統的に飯地で取り組んでいる人を中心に、恵那北中の中野方や笠置の子も出演できるなど、子供たちも参加できて練習した。周辺地域の伝統文化もその中で一緒にでき3町の意識が高まったと思う。今度は、ジャズの公演もあると聞いた。拠点は小さくても人は集まってくる。

それぞれの拠点の使い方を市民と考えないといけないと思う。生涯学習、文化、スポーツの意識が高まり、市民の心が豊かになると良いと思う。

■委員

44 ページについて。消防団の人材確保や処遇改善に関する記載がある。私も現役で消防団をやっているが、50歳になっても辞められるかどうかというのが現状。処遇としては、改善されてきているが、ここに記載がないのが、今後、消滅する団があるという問題。長島では千田と久須見が合併するだろうということと、建物の老朽化で詰所を建て替えたりすることが、この処遇改善に含まれているか。

■消防長

消防団の器具庫は、総合計画よりは行財政改革で、車や器具の数を消防団の数に合わせて少しずつ見直してきた。計画の目標値は既に達成している。消防団員の減少に伴う車両、器具庫の数の見直しなどは、今後も消防団に意見を聞きながらやっていきたい。

■委員

60 ページについて。外国からの観光客の拠点を作ること。年間400～500名の外国人観光客が来ている。オーストラリアやヨーロッパからが多く、馬籠の方も行くが、馬籠より先に中山道に入るといふ。ツアーの中に中山道が入っているということのようだ。

広重美術館、中山道、ひし屋資料館を、60 ページに名前を入れられないか。

どのページも写真があるが、何をしている写真なのかの説明、タイトルがない。真ん中は恵那峡だと思うが、タイトルがある方が意味が分かる。

■議長（会長）

最終的にはこれはどういう体裁になるのか。2 ページ並んでいるが。

■事務局

A4 縦の見開きにすると考えている。

■議長（会長）

今それが並んでいるということか。

■事務局

そうだ。

■議長（会長）

体裁は市民にどう見えるかというところで、重要。最終の委員会では最終的な体裁に近い形でもらって確認してほしい。見え方は表紙も含めて非常に重要。

パブコメ前の最終案ということで、本日意見が出たので修正もあると思うが、事務局一任か、会長一任で事務局と相談にするか。

■事務局

事務局一任でお願いしたい。

■議長（会長）

本日頂いた意見を踏まえ、事務局で修正してパブリックコメントに進む。
議事は以上とする。

5 その他

- (1) 今後の策定スケジュールについて
- (2) パブリックコメントの実施について
- (3) 次回開催予定

■進行（事務局） 長時間ありがとうございました。3点情報共有する。

[事務局から資料に基づき説明]

6 閉会

■副会長

初めてこの会議に参加した。ここまで計画を詰めていただいて、よくできていると思う。

一番気になるのは人口減少。私の住んでいる地域は、13 地区の中で一番人数が少ないので特に気になる。平成 28 年度に大学の先生と一緒に人口推計をした。当時は 620 人ぐらいだったが、推計では 30 年後、この計画が終わるときには、何もしないと 300 人くらいになり、80 年後には 100 人を切るということだった。

先生は、今、何もやらなかったら 100 人を切るので、大井町などに入れてもらうことを考えた方がいいということもおっしゃっていた。

危機感をもって、移住定住を一番の施策として一生懸命やっている。10 年間で 30 組、約 70 名の移住者が来たこともあり、飯地町では高齢化率が改善している。保育園に 4 名の子供がいるが、全員移住者の子ども。

これから地域計画を考えていくとき、人口減少をそのときそのときに止めるという場当たり的なことではなく、本当に 300 人になったらどういう問題が出るのかということ、今から 20 年間、10 年間の中で真っ先にやるべきことを真剣に考え、それを施策で打とうという話し合いをしている。

人口は絶対に減る。若い人を 2 家族ずつ入れても、大体 30 年後には横ばいになり、子供の数も減らなくなり、高齢化率も正常化する。その 400 人を目指して頑張ろうということで、ターゲットを 300 人としている。それが持続可能なライン。そういうイメージをワークショップなどでやっている。

絵本みたいに考えたらいいいというアイデアもある。「もし飯地が 100 人だったら」。「診療所がなくなってしまったけど、恵那市やみんなの協力で、恵那病院にお年寄りが診療に行けるので心配ない。」、「バスがなくなったけど、いつでも里山バスで武並駅と恵那駅に送ってくれる。」など。減った人口の中でどうなるかをみんなで一生懸命考えていきたい。

これで、閉会する。

■進行（事務局）

次回は 7 月 11 日。ありがとうございました。

〔 閉 会 〕